6 計画の目標と指標

基本方針、施策方針に対する取組を確実に進めていくため、それぞれの状況を確認できる目標及び指標、目標値を設定するものとする。以下を目標、指標として設定する。

表 6-1 目標、指標

基本方針	目標（施策方針）	評価指標と説明、算定方法等	現況値	5 年後の目標値	目標値の考え方
基幹的公共交通軸の活性化	基幹的公共交通ネットワークの整備	**基幹路線区間の利用者数** ・基幹公共交通として設定した区間の利用者数	不明 ・IC カード導入後に設定	1,200 人/日増加	基幹公共交通としての定着により、それぞれ以下を目指す ・15 歳以上の市民全員が年 1 回基幹の鉄道、バスを利用（約 860 人/日相当） ・新規大学の学生の 10%が鉄道、バスで通学（約 160 人/日相当） ・観光客増加分の半数が鉄道、バスを 1 回利用（約 180 人/日相当） 駅、バス停の利用者は、中心部内々とそれ以外のトリップでの駅、バス停の利用回数を踏まえて算定 （2015 年度地域公共交通の概況実態調査より、中心部内々移動の割合を設定）
	中心市街地の都市機能を支える公共交通利用環境の整備	**中心市街地の駅、バス停の利用者数** ・中心市街地の鉄道駅、バス停の総利用者数	不明 ・IC カード導入後に設定	1,700 人/日増加	
		中心市街地の小売店売上高 中心市街地に該当する 500m メッシュデータ内における小売業の年間販売総額（千万円）	7,289 千万円/年	7,302 千万円/年	第 5 次和歌山市長期総合計画に位置付けられている目標値「まちなか居住人口の比率」の目標増加率（5 年換算 1.002 倍：8.9%（2015 年）⇒9.3%（2026 年））の伸び率と同様の目標値を目指すとして設定
基幹的公共交通軸へのアクセスの向上	基幹的公共交通軸へつながる交通手段の確保	**公共交通カバー率（人口）** 各交通機関のカバー距離を以下のように設定し、公共交通機関を利用可能な人口を算出。 鉄道駅:1,000m、バス停、地域内交通:500m	約 92% 市全体：364,154 人 不便地域：29,351 人	約 93%	地域交通 1 箇所につき 1,000 人カバーできるとして、2 箇所→6 箇所の目標達成により 4,000 人分カバー人口が増加するとして設定 ※250m メッシュ人口（2015 年度国勢調査）
		公共交通不便地域のカバー箇所数 地域内交通によって公共交通不便地域をカバーしている箇所数	2 箇所	6 箇所	概ね 2 年に 1 箇所、公共交通不便地域に地域内交通を導入することを当面の目標として設定
	地域拠点等の公共交通利用環境の整備	**地域拠点周辺の小売店売上高** 地域拠点に該当する 500m メッシュデータ内における小売業の年間販売総額（千万円）	5,186 千万円/年	5,186 千万円/年	地域拠点の現在の商業機能を維持することを目指し、現状維持として設定
すべての人が使いやすい公共交通利用環境の向上	安心、安全、快適に利用できる公共交通の実現	**公共交通の満足度** 市内の公共交通全般に対して「非常に満足」又は「満足」と答える人の割合	不明	今後、市政世論調査に項目を追加し、右の考え方で設定	現在「どちらともいえない」と回答している人の半数を「満足」に転換させるとして設定
	交通によるおもてなしの創出、観光地の回遊性の向上、広域交流の促進	**観光入込客数** 市内の宿泊客数	宿泊客：938,691 人 2017 年(1~12 月)	宿泊客：約 1,080,000 人	和歌山市長期総合計画の 2023 年の目標数値に設定
公共交通の維持、活性化	市民、民間事業所、交通事業者、行政等の役割分担と協働による公共交通の確保、維持	**各者との公共交通の活性化や利用促進に向けた取組数** 行政や交通事業者と連携しつつ、下記関係者が主体となり利用促進等を行うプロジェクト数 市民：個人、市民団体、NPO 等の組織 等 民間事業所：企業、商店、福祉施設 等 学校：小学校、中学校、高校、大学 等	1 事業	5 事業	地域内交通の導入を進める地域や、中心市街地の大学や企業との連携した取組、小学校での取組を展開
		公共交通の一日平均利用者割合 人口に対する一日平均公共交通利用者数	22.6%	23.0%	今後の取組により、全市民の 0.4%を公共交通へ転換させることを目安として設定